

## ポスター報告 22

後藤 悠里 福山市立大学都市経営学部

川島 聡 岡山理科大学経営学部

原田 新 岡山大学全学教育・学生支援機構

池谷 航介 岡山大学全学教育・学生支援機構

#報告題目 災害時の障害者のヴァルネラビリティを高める社会的要因の検討—西日本豪雨の事例—

#報告キーワード 西日本豪雨 時間的次元 ヴァルネラビリティ

#報告要旨

### 【背景】

災害が生じた時、障害者は健常者に比べ被害を受けやすく、その被害はより甚大なものになりやすい。たとえば、東日本大震災においては、「障害者の死亡率が被災住民全体の死亡率の約2倍」であった（障害者権利条約第1回目日本政府報告, パラグラフ68）。

ワイズナーら（Wisner et al. 2004）によれば、一般に、人びとの直面する災難・災害のリスクは、ハザード（人びとに危害を与える可能性のある自然現象）とヴァルネラビリティ（人びとの被害の潜在的な受けやすさ）との相互作用から生じる。であるならば、障害者の災害リスクを小さくするためには、災害時の障害者のヴァルネラビリティを高めてしまう社会的要因を除去することが重要となろう。では、そうした社会的要因とは具体的にはどのようなものであろうか。また、当該要因を取り除くためには、どのような対応が必要かつ適切であろうか。

先行研究においては、障害者のヴァルネラビリティを高める社会的要因を明らかにするためには、災害直前・直後だけではなく、時間軸を幅広く取り考察をする必要があることが指摘されている（Wisner et al. 2004, 土屋他 2018）。行政が障害者の地域移行を進めるに

あたって、災害についての対策を欠いていたために、東日本大震災時の障害者の被害が拡大した可能性がある（立木 2018）。とすれば、障害者のヴァルネラビリティを高める要因を取り除くためには、少なくとも災害の前（平時）における支援や取組みも必要となろう。

また、貧困層は、裕福な層と比べて、生活の建て直しに時間がかかる（Wisner et al. 2004）。土屋ら（2018）は東日本大震災による障害者への中長期的な影響に関する調査を行っている。調査によれば、安定した仕事についていなかった人は、安定した仕事についていた人に比べ、不安定な状況に置かれていた。障害者は健常者に比べ、低所得であり、失業率も高いことを考えれば、災害による影響は障害者にとって長く継続するといえるだろう。

以上のことから、災害における障害者のヴァルネラビリティを高める社会的要因を明らかにするとともに、その要因を除去するための必要かつ適切な対応を考えるにあたっては、時間的次元に着目して、災害前（平時）における障害者の置かれた状況と、災害後しばらく経過した時点での障害者の状態の把握が必要である。

#### 【本発表が取り上げる対象および目的、方法】

2018年7月に西日本を中心に記録的な豪雨が発生した（以下、「西日本豪雨」と呼ぶ）。それに伴う河川の氾濫、浸水、土砂崩れにより、多くの死者・行方不明者が出た。とくに岡山県の被害は甚大であったが、西日本豪雨による県内障害者の被災状況は明らかになっていない。

本発表は、岡山県の行政機関と障害者支援機関に対して、西日本豪雨の発生前（平時）と発生後（災害後）にどのような取組みを行ったのかについて半構造化インタビューを行うことにより、時間的次元に着目しつつ、当該豪雨の被害を受けた県内障害者を取りまく状況、特にヴァルネラビリティの程度・実態とそれを高めた社会的要因を明らかにするとともに、当該要因を除去するための必要かつ適切な対応とはどのようなものを明らかにすることを目的とする。

#### 【結果と考察】

2018年11月から12月にかけて、2つの行政機関および2つの支援機関に対してインタビューを実施し、以下5つの論点を抽出した。①事前の対策は十分だったのか、②避難所はどうあるべきか、③借上型仮設住宅（みなし仮設住宅）に対してどのように支援するか、④機関間のネットワークはできているか、⑤時間の経過による課題にどのように対応するか。また、防災意識の低さ、単身で暮らす障害者の少なさ、近所づきあいが濃密であったことといった、地域特性についての知見を得ることもできた。

#### 【研究倫理審査】

本研究の遂行にあたっては、日本社会学会倫理綱領に基づく研究指針を遵守している。

#### 文献

立木茂雄, 2018, 「緊急事態」長瀬修・川島聡編『障害者権利条約の実施—批准後の日本の課題』信山社, 219-261.

土屋葉・岩永理恵・井口高志・田宮遊子, 2018, 『被災経験の聴きとりから考える—東日本大震災後の日常生活と公的支援』生活書院.

Wisner, B., P. Blaikie, T. Cannon & I. Davis, 2004, *At Risk: Natural Hazards, People's Vulnerability and Disasters* (2nd edition), Oxon: Routledge.

